

浚渫・揚土・土捨経路平面図 (参考図)

★浚渫箇所

①南沖洲物揚場
前面床掘

②土運船曳航(引船)

曳航距離
片道約1.5km。

③浚渫土揚土～ポンド(手前)投入

安全監視船
FRP・D1.0m3PS型

※オーシャン岸壁老朽化により直背後にはバックホウを配置できないため、クレーン付き台船によって岸壁法線から7m以上背後に揚土後、バックホウによりポンドに投入する。

揚土～土捨の流れ (参考)

④固化材投入(フレコンバッグ)および⑤搅拌・混合

※搅拌・混合は固化材の添加による色むらがなくなるまで行う。(固化材が塊状になって分散しにくい場合はより入念に行う。)
※高炉セメントB種、添加量57kg/m³

バックホウ・攪拌機
クローラ型山積0.6m³(車積0.6m³)

使用制限範囲

ラマテレンクレーン(フレコン投入用)
18t積

⑥ポンド間移送
⑦一次養生

バックホウ
クローラ型山積0.6m³(車積0.6m³)

⑧積込～2次養生

2次養生箇所

⑨積込～土捨

※土捨場まで約130m。

土捨て場

東西道路(幅員約13m)

ダンプトラック
10t積

ダンプトラック
10t積

オーシャンフェリー跡地

オーシャンフェリー跡地

※ポンドは直轄工事実施時に構築したものを流用予定。

揚土

土捨て場

土捨て場

